

内閣総理大臣、各政党党首、栃木県国会議員、各国会議員の皆様へ

.....

拝啓

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
常日頃の国政へのご尽力について、心より感謝申し上げます。

当方では量子生態学という学問を提唱しておりますが、mRNAワクチンの人体への影響について量子生態学の視点で精査したところ、大変な問題が浮上しました。

今般のmRNAワクチン接種はRNA型のコロナウイルスそのものを人体へ侵入させる行為に匹敵し、B型肝炎ウイルスと同様の問題発生を起こすことが理論的に判明しました。

とすると、ワクチン接種者は、コロナウイルスのキャリアになってしまいます。キャリアのまま過ぎれば良いのですが、現状の副反応発生者の状況を見ると、時間経過に連れて今以上に、症状や発生部位が特定できない体調不良者が続出することが懸念されます。

理由は、B型肝炎ウイルスはDNA型のため肝臓限定ですが、コロナウイルスはRNA型のため全身に影響を及ぼし、悪化部位を特定できない点にあります。最悪時には、全身がんとして症状が出ると思われま

す。問題が深刻なため、そのように考えざるを得ない理由を記したレポートを作成し、お送り致す次第です。早急に理論を検証頂き、一部でも否定できない内容が残った場合には、政府は真摯に、治療技術開発に早急に取り組むべきと思います。その際には、量子生態学の視点によるご協力は惜しまないつもりですので、ご指示くださいませ。

なお野上倫加は、注射器使い回しによる特定B型肝炎ウイルスのキャリアで、政府認定の感染者です。今から30年以上前、感染していると知らないまま体調不良が起きましたが、生活改善により深刻な症状発生は出ず、今は大変健康に過ごしております。同様に国民の皆様がキャリアでも健康に過ごせるようにすることは、理論的にも十分可能と考えます。

検証作業を急ぐためにも、添付資料と同じものを、「各位」と記した文書の最後の「送付先リスト」の皆様へお送りしております。

以上、至急のご対応を、お願い申し上げます。

敬具

野上昭治

野上倫加

令和5年10月28日 1/1

株式会社ソウルリバーバンク E-mail : soulinfo@nogami.co.jp
〒323-1105 栃木県栃木市藤岡町甲 1687-1 tel0282-61-1161 fax0282-61-1141

各位

.....

拝啓

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

突然のこのようなご連絡を、ご容赦のほどお願い申し上げます。
当方、栃木県栃木市の野上昭治と野上倫加と申す夫婦です。

ここ最近、コロナワクチンの被害情報に接する機会が増え、先月9月7日に開かれた、一般社団法人ワクチン問題研究会の設立会見を拝見し、ご連絡を決めた次第です。

私たち夫婦は、福島第一原子力発電所の災害事故をきっかけに、量子生態学という学問を提唱致しました。詳細はレポートに記載しておりますのでご覧頂くとして、量子生態学には、遺伝子前駆分子論という考え方があります。

会見を拝見し、mRNAワクチンの被害者の方を思うと、遺伝子前駆分子論をもう一度精査すべきと気づきました。

その結果、重大な懸念に至りました。

量子生態学では、もともとヘモグロビンを、遺伝子前駆分子と位置づけています。しかし今回の精査で、ヘモグロビンは細胞形成時にミトコンドリアDNAへ変化し、細胞が古くなり酸化が進むと電子移動を発露、遺伝子スイッチがONになりRNAへ変化し、細胞核のDNAを重ねて新細胞を形成する、そんなメカニズムを持つ可能性を見いだしました。

現行科学で転写と翻訳を担うとされるRNAは、量子生態学ではヘモグロビン由来の遺伝子前駆分子に当り、その機能は、哺乳類胎生動物という生物のドメイン系統を決定する遺伝情報伝達です。一方、DNAは、犬や猫、サルやヒト等の種の特長と、肌色、髪の毛、目の色など、両親個性の遺伝情報の伝達を担います。

DNAとRNAが一体になることで、人体という形態と臓器機能を持つ、ヒトとしての種の全てを整える遺伝情報が完成される、そんな結論に至りました。

とすると、今般のコロナウィルスはRNAタイプですから、ウィルスという生物ドメインの系統を決定する、遺伝子前駆分子に当たります。

つまり、コロナウィルスもヘモグロビンも、同じRNA機能分子レベルということです。

懸念するのは、コロナウィルスが人体に入り免疫力が無いと、同じRNA機能レベルの

令和5年10月22日 1/3

株式会社ソウルリバーバンク E-mail : soulinfo@nogami.co.jp
〒323-1105 栃木県栃木市藤岡町甲 1687-1 tel0282-61-1161 fax0282-61-1141

分子として、ヘモグロビンに取って替わる可能性です。実際、コロナ症状に低酸素症がありました。これは免疫力が無いコロナ感染者の中で体内のヘモグロビンがウィルスと代替され、絶対量が減少して発生したと想定されます。

大きな問題は、mRNA ワクチン接種は、ウィルスのRNA 機能レベル分子を体内に入れることと同義になることです。

日本には、注射針使い回しによるB型肝炎問題があります。注射針の使い回しで健康な人々にB型肝炎ウィルスを人為的に侵入させたのですが、mRNA ワクチン接種は、これと同じ状態になってしまいます。

B型肝炎ウィルスはDNAのため、遺伝情報は肝臓に限定されます。しかしRNAは生物ドメインシステムの遺伝情報を決定するため、人体形態はおろか臓器機能の全てに影響が及ぶ可能性があります。最悪時には、全身に、がんが発生することも想定できます。

レポートには、以上の全てのメカニズム理論の仮説と、そのように考えざるを得ない根拠を示しました。また解消法のヒントも記載しております。

今般、皆様には、是非とも参考にして頂き、これ以上の被害拡大を防ぐためにご活用頂ければとお送りする次第です。

併せて、レポートの概要文書と、私たちが何故このようなレポートを記すに至ったか、経緯文書も同封致しました。

レポート、概要文書、経緯文書、及び本御手紙は、添付の発送先リストの方々へ同じ内容でお送りしております。リスト中の政治家の皆様へもお送り致しておりますので、手に取られていると存じます。

政界の皆様には、mRNA ワクチンに関し新しい理論のもとに危険性が浮上したため、検証が叶うまで一旦接種を中止するなど、対応のご検討が必要と個人的に考えます。しかし科学者でも無い私たちの話は信頼性が無く、聞いて頂けないことを承知しております。

量子生態学理論の応用は、放射能処理を実現する可能性があります。これまで、経済産業省の資源エネルギー課はもとより、東京電力、種々の大学の研究者の方々、日本原子力研究開発機構等々へ、再三、研究をお願いして参りました。しかし全てから、全否定されております。そもそも量子生態学は近代の科学理論から逸脱しており、しかも科学者でも技術者でも無い夫婦の見解であり、理解が進まないという事情があります。

本レポートは放射能処理では無く生命の危険に直結する問題で緊急を要しますが、医師でも研究者でも無い私たち夫婦の話は、当然のごとく無視されることと思います。

しかし本書を手にした政治家以外の、研究者の皆様が真剣にレポートをお読み頂くことで、理論だけでも先に検証をお急ぎいただき正しい可能性があれば、「専門家として理論を検討した結果、対応を急いだ方が良い」と政府に進言頂けば、話を聞いてくださるかもしれません。

B型肝炎問題が表に出たとき、既に当時の政府関係者は在籍が無く亡くなられた方が殆どで、事情聴取や責任所在の精査には困難が伴いました。しかし今般は、mRNA ワクチン導入について、検討された専門家、政治家、官僚の皆様、それぞれご健在です。その皆様が、私たちの理論をもとにmRNA ワクチンを再検証頂き、政府側で検討して問題があれば根拠を明示し反論頂くことが可能な環境にあります。また検証内容に対し、責任の所在を明確にしておくことも可能です。

この作業で私たちの理論の間違いをご指摘頂き、mRNA ワクチンの安全性や有効性を改めて再確認できれば良いのですが、それが叶わない場合は、政府は真摯に私たちの理論に向き合い、弊害を解消する技術開発に取り組んで頂きたいと思っております。

症状悪化の理由が科学的に判明し責任の所在も明確になり、治療技術確立の未来が見えれば、副反応に苦しむ皆様やご家族を無くされた皆様も、納得と安堵を得られるでしょう。そうすればB型肝炎のようなキャリアの皆様が今後の人生において起こすであろう弊害も減り、訴訟問題に発展するリスクは消えると思っております。

いずれにしても、世の中が良くなるための一助になればとお送り致します。できる限り否定無く先入観を持たず、レポートをお読み頂き、ご活用くださると幸いです。

もし、理論的に考え直すべき内容やご質問等ございましたら、遠慮無くお知らせくださいませ。再考しながら理論を訂正し、さらに良い方向へ進むよう尽力したいと思います。

一日も早く、被害者の皆様の体調が回復するよう、祈念しております。

敬具

野上昭治

野上倫加

本書以外の送付品（1～3は本書に綴ってあります、この順にお読みください）

- 1・量子生態学/遺伝子前駆分子論によるmRNA ワクチンレポート概要 A4*3p
- 2・天津香久耶照大神、大国常立大神と、市杵島姫命御名の下 A4*3p
- 3・送付先リスト A4*2p
- 4・量子生態学/遺伝子前駆分子論によるmRNA ワクチンレポート 冊子

令和5年10月22日 3/3

株式会社ソウルリバーバンク E-mail : soulinfo@nogami.co.jp
〒323-1105 栃木県栃木市藤岡町甲 1687-1 tel0282-61-1161 fax0282-61-1141

量子生態学/遺伝子前駆分子論によるmRNAワクチン レポート概要

- 量子生態学について
 - * 量子生態学とは、全ての現象を電子移動だけで説明する学問です。
 - * 量子生態学により、原始地球時代から現代までの進化を電子移動で追うと、DNA以前に位置する、遺伝情報伝達分子の存在が浮かんできます。
 - * それが遺伝子前駆分子で、この分子が生物ドメイン系統の遺伝情報の伝達を担っています。
 - * 私たち人間は「哺乳類胎生動物」に属しますが、この生物形態機能の遺伝情報を伝達しているのがヘモグロビンです。
 - * 生物形態機能の遺伝情報は、近代科学で言う遺伝子DNAより手前に位置するため、量子生態学では遺伝子前駆分子と位置づけ、人体ではヘモグロビンがこれに当たると定義しています。
- 人体システムについて
 - * 生物形態機能性に関する遺伝は、母性遺伝で伝達されます。
 - * 胎盤経由で母親の血中ヘモグロビンにより提供され、ヒトへの遺伝情報伝達が子孫に繁栄され、現代まで続いています。
 - * 次に細胞形成について、細胞内のミトコンドリアは、ヘモグロビンの変化により形成され、これがRNAの形成源と考えられます。
 - * 人体内に新たな電子移動環境が発生すると、これが新細胞形成タイミングのサインとして遺伝子のスイッチがONになります。するとミトコンドリアが関与してヘモグロビン由来のRNAが登場し、人体の形態機能遺伝情報の伝達体制が整います。
 - * ヘモグロビンがRNAに変化し哺乳類胎生動物の遺伝情報を伝達、ここにDNA情報が重なりサルやヒトなどの種の特異性や両親個性の情報伝達を担い、総合して人体に遺伝情報が反映されます。
 - * つまりRNAとは、ドメイン系統を決定する遺伝情報伝達機能分子であり、繰り返しますが、哺乳類ではヘモグロビンがその機能分子です。
 - * 現在の科学界でRNAは転写と翻訳を担うとしていますが、恐らく間違いです。
- コロナウィルスについて
 - * 次にコロナウィルスはRNAタイプのウィルスで、ヘモグロビンと同じレベルの機能分子です。
 - * 同じレベルのため、コロナウィルスに感染し先天的な免疫力が無い場合、ヘモグロビンと代替します。

- * 代替によりヘモグロビンが減少され、酸素を体内に運ばず、低酸素症が発生します。
- * 当方では、血中のヘモグロビンの変化を追う特許技術を持ち多数の血液の顕微鏡観察映像を見えています。
- * 使用顕微鏡は、血液に対し、染色や温度変化などの指定条件を一切要せず、観察は自然生態そのままの変化確認になっています。
- * 観察からは、血液内にヘモグロビンレベルの異分子の侵入があると、ヘモグロビンの機能性が攪乱されることがわかっています。
- * 攪乱分子はいずれもコロイド粒子で、添加物等の人為合成分子類と思われます。
- * これまでの血液観察から、正常な人体では、スパイクタンパク質（量子生態学ではコロナ状と表現）は絶対に形成されないことを確認しています。
- * スパイクタンパク質は添加物類摂取が多い人に形成され、これが疾病に繋がる可能性が窺えています。
- * このメカニズムは、水俣病のメチル水銀が偽メチル基を作るのと同じです。
- * 以上を踏まえると、自然界分子は染色やその他の操作で本来の姿が変化し、近代医学や生物学界では、正しい分子形状や挙動様相を把握できていないと考えます。

● mRNAワクチンについて

- * ウィルス類のカプシドやエンベロープは単なる皮膜に過ぎず、ウィルス本体はカプシド内部の粒子で、コロナウィルスのRNA分子そのものです。
- * 量子生態学によれば、mRNAワクチンは病原ウィルス本体で構成される、ウィルスのドメイン系統の遺伝伝達機能を持つコロイド溶液になります。
- * 従ってmRNAワクチン接種はウィルス病原本体を体内に入れ、その遺伝情報を人体に反映させる、すなわち感染させる行為に他なりません。従って接種者の身体異常は、副反応ではなく、ウィルスの感染症状に該当すると考えられます。
- * 同じ病原ウィルスにB型肝炎ウィルスがありますが、これはDNAで肝臓限定の遺伝情報です。
- * 一方RNAは生物ドメイン系統の遺伝伝達を担い、RNAタイプの病原ウィルスは、人体の生物ドメイン系統の遺伝伝達全てに影響し、あらゆる部位で攪乱が起これば疾病に繋がることが想定されます。
- * そしてmRNAワクチン接種は、使い回しの注射器でB型肝炎の病原ウィルスを多くの人に感染させたと、同じ状況を作っていると判断できます。

● 人体への影響

- * もともと免疫力がある人はスパイクタンパク質の形成を阻止するため、mRNAワクチンを接種しても副反応等は、少ないか出ないと思われます。
- * しかし副反応が無くても、体内にワクチン接種で侵入したウィルス本体は残存し、キャリアの人を作り、また長い間に発がんへ進み亡くなる人も出るなど、B型肝炎ウィルス問題と同じ社会現象を起こすことが想定されます。

- * 一方、ワクチン接種でスパイクタンパク質が体内に形成される人体は、既に免疫力が無いことを意味しています。
- * ワクチン接種でスパイクタンパク質を形成する体内環境の人は発がん体質に当たるため、発がんリスクは高まります。
- * 他にも、炎症、神経伝達異常、臓器の機能不全など、あらゆる弊害を作ります。

- 対策

- * 量子生態学では、これを打ち消すメカニズムがわかっていますので、量子生態学による医療技術開発を急ぎ完成すれば、被害拡大を止めることができると考えます。
- * 本レポートは、被害防止技術確立実現のため、量子生態学によるメカニズムを説明するもので、様々な研究の参考になるよう、ダウンロード版はどなたでも無料でご覧頂くことができます。

以上

- 参考資料サイトアドレス（全て著作権があります）

レポートpdf版・EPUB版 無料 <http://www.nogami.co.jp/srb/rna.html>

レポート紙版 有料 <https://shop.nogami.co.jp/items/79019712>

血液観察映像 <https://www.youtube.com/@qenogami/videos>

量子生態学テキストamazon販売

<https://www.amazon.co.jp/gp/product/B0BJ4YVDJM>

意識を持つ原子たちネクサス・AIが人間に変わる日amazon販売

<https://www.amazon.co.jp/gp/product/B0C5DR15G7>

天津香久耶照大神、大国常立大神、市杵島姫命御名の下

「mRNAワクチンレポート」は、「量子生態学」という、野上倫加が提唱した理論が根拠になっています。

「量子生態学」は電子移動というたったひとつのメカニズムだけで、地球自然界のあらゆる現象を説明する学問です。これに気づいたのは、野上倫加と夫・野上昭治の、自給自足を目指した農業実践からでした。しかしこの就農も、そこに至るまでの経緯も、そもそも野上昭治と野上倫加の出会いと結婚も、それ以前に野上昭治の誕生、野上倫加の誕生、と、二人の人生の全ては、「目に見えない何か」により、100年を超える綿密な計画の下に仕組みられた出来事と考えられます。

二人の人生には様々な偶然が起こり続け、量子生態学理論をまとめるために必要な情報や現象体験が次々に届けられ、必要な人々との出会いも、都度、用意されてきました。そして量子生態学を登場させるための段取りは、少なくとも2000万年前頃に開始されたと想定されます。自然界に理論の背景となる舞台を整えたことが最初で、それは今を生きる二人が出会うべき、山深く埋蔵された2種類の鉱物資源の準備でした。その後、今からおよそ100~200年前頃、改めて「目に見えない何か」は、現代の人間社会に対し、量子生態学提唱とこのレポート作成に向かう環境を準備したと思われます。この環境中に二人は投げ込まれレポートを作成、「目に見えない何か」が人間社会に届ける役割を、二人に託しました。しかし託されたのは二人ばかりではありません。コロナウィルスの登場が無いとレポートは生まれず、コロナ問題も、「目に見えない何か」による役割を担う人々により起こされたことが想定できます。でも恐らく人々は、自分にそんな役割があることなど、微塵も気づいていないでしょう。

「目に見えない何か」は、地球上の人間社会を、背後から動かしているようです。

そんな様子をはっきりと見えてきたのが、東日本大震災と福島第一原子力発電所の災害事故でした。このときから私たち夫婦の歩みは、明確に、量子生態学の理論整備へ向かいました。特に福島第一原子力発電所の災害事故は、量子生態学の現象論に気づくために、必須の出来事でした。ただし「目に見えない何か」は、人体への被曝被害を極力軽減できる土地を選んで原発を建造させ、周到に準備して事故を起こさせたと考えられます。

「目に見えない何か」が人間社会に向け準備を開始した、今から100~200年前頃という時間の単位は、私たちには大変長い時間軸です。しかし宇宙の流れの中では、おそらくほんの1~2秒で、人間感覚に直すともっと短い、一瞬かもしれません。

人間の親たちは、愛する我が子が怪我をしないように、その行動に注意を払います。親であれば、一秒先の我が子の行動を予測し、これ以上の動きは危険だと察知すれば、すっと手を出して護るでしょう。どうやら「目に見えない何か」は親と同じ気持ちで、人間を護ろうとして「量子生態学」を私たちに託したようです。

事実、今、私たち人間社会は、崖から転がり落ちる寸前に居ます。

未知のウィルス問題は、世界中に、mRNAワクチンによる副作用で苦しむ人々を作り続けています。西側諸国と東側諸国との代理戦争ともつかないウクライナとロシアの争いは、街を破壊し多数の人々を死なせ、不幸を作り続けています。さらにイスラエルとパレスチナの間でも戦闘が発生し、これも代理戦争色を呈しつつ、都市を破壊し百万人以上の人々を追い出しています。被災した人々は、ベットどころか水道も電気も食料も無い地に移動を強要され、今の世界には家も食料も無い子ども達が、4000万人を超える聞き及んでいます。

自然界では、異常気象による豪雨や干ばつが発生し、地震や火山噴火も頻繁に起きるようになり、戦争被害と同様に、住居も食べ物も失った被災者を増やし続けています。アフガニスタンや香港では国際社会の目の前で思想殺害により、人間の尊厳を殺しています。ロシアや中国では意に沿わない人物を平然と抹殺する権力が長期政権実現のために法律を変え、日本では貧困家庭を増大させ病気疾病を増やしています。それどころか日本は、過去の反省から先人政治家達が戦争の無い世を目指した志をすっかり封じ、国家が殺人を堂々と実行するための武力装備に、膨大な税金を際限無く使おうとしています。

現代社会の国家は、無限に殺人を起こす行為や人々に不幸を強いることを当然としていますが、果たして、そんな存在は許されるのでしょうか。

世界各国も日本も、殆どの国民は国家が殺人を実行することを望んでいないと、個人的には考えています。そもそも宇宙自然界の摂理は、そのような行為を認めていません。何故なら、人体はストレスや不幸に晒されると、健康を損ねるメカニズムがあるからです。従って今のような世界秩序は、このメカニズムの基では人間を死なせるシステムになっており、世界中のトップリーダーは率先してその実現に努力しているのです。

自然摂理を整えた「目に見えない何か」は、このような今の世界の姿を2000万年前から予測し、準備を開始したのでしょう。いずれ人間は、知らず知らずのうちに絶滅を選択するであろうことを推し量り、それを防ぐ準備を進めてきたのです。そして今、これまでの世界の枠組みの全てが壊れ、いよいよ本格的に破滅へ進みそうなこのタイミングで、「目に見えない何か」は量子生態学を通し、自分たちの存在を表に出そうとしています。

今般、野上倫加が執筆した「量子生態学・遺伝子前駆分子論によるmRNAワクチンレポート」は、医学界や生物学界ではとてもショックな内容だと思えます。でもこのレポートは、架空の出来事を妄想し、想像でまとめたものではありません。私たち夫婦は、神力も霊力も皆無の普通の人間で、勝手に理論が湧いて出てきたわけでもありません。不思議な偶然という支援は受けましたが、時間をかけて一歩ずつ歩んだ結果、農業を通し、土や作物と関わり、自然界の姿を顕微鏡で観察し続け、私たち自らが導き出しています。もしかしたら量子生態学の考え方に一部、間違いがあるかも知れません。しかしそのように考えなければ、体験した現象のメカニズムを説明できませんでした。

そして私たちは今このレポートを世の中に出そうとしており、それは「目に見えない何か」が私たちに託した役割だと考えています。

この「目に見えない何か」を、人間は「神」と呼んでいます。私たちに役割を与え動かしているのは、日本の神道に位置する三柱です。

筆頭神は「天津香久耶照大神」、野上昭治が昭和46年に出会いました。平成19年頃には夫婦で「市杵島姫命」と出会いました。そして平成20年、野上倫加が「大国常立大神」と出会い、この神が陣頭指揮を執っています。

大国常立大神とは、「日月神示」という書物の中で出会いました。「日月神示」は神界経緯の書と呼ばれる、神々による人間社会の救済計画を記した書物です。野上倫加はこの書物と出会い、読み進み、計画通りに私たちは動かされて行きました。

「日月神示」には、2031年3月11日には、人間社会の行く末について決着が着き、「ひらく」と示しています。ひらくとは、神々の世界が実現する意味です。

しかしこの「ひらく」が、人間社会が破滅し人類が消えることで良い世界が実現するのか、それとも人間社会が努力して理想郷を造った結果の姿かは、示されていません。ただ、世界の混迷を解決することは可能で、リーダーシップを取るのは日本人の役割である、そんなことが記されています。

本書は、パソコンやスマホをお持ちなら、どなたでも無料でお読み頂けるようにしました。レポートを手にした日本人の皆様おひとりおひとりが、それぞれどのように受け止めるか、どのように行動するかは自由です。しかし世界が異常な今、できることをひとりひとりがすべきときと思い、何かの助けになればと、このような体裁と致しました。

人々が健康で幸せに暮らせる日のために、天津香久耶照大神、大国常立大神、市杵島姫命、御三柱の御名の下、「量子生態学/遺伝子前駆分子論によるmRNAワクチンレポート」をお届け致します。

野上昭治
野上倫加

追伸：

「天津香久耶照大神」とは仮の名前です。

私たち夫婦が正しく歩み、世界が平和になり人間社会が自然摂理に叶った理想形になったとき、初めて名乗ると仰せです。